

BEST AVAILABLE COPY

PUBLICATION NUMBER : 61150249
PUBLICATION DATE : 08-07-86

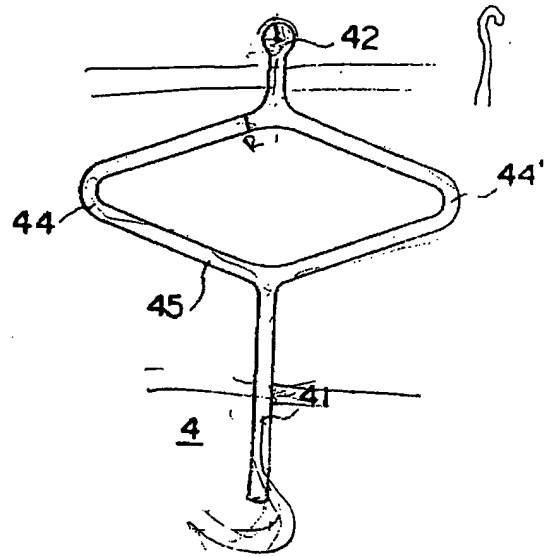
APPLICATION DATE : 24-12-84
APPLICATION NUMBER : 59272317

APPLICANT : TOSHIBA CORP;

INVENTOR : TAKIZAWA SEIJI;

INT.CL. : H01L 23/32

TITLE : SOCKET PIN FOR SEMICONDUCTOR
DEVICE



ABSTRACT : PURPOSE: To enable the prolongation of lifetime by securing good contacts by providing an annular elastic section between the base end and the contact point.

CONSTITUTION: The socket pin is annular in the elastic section 45 provided between the base end 41 and the contact point 42 and has two bends 44 and 44'. Because of dispersion of stress to two parts, the burden of one bend lightens. Therefore, the elastic lifetime of the bend prolongates, and good contacts can be obtained. For the purpose of evenly dispersing stress, it is preferable to form the annular elastic section 45 out of two triangular members which are located in the relation of mirror images. This construction can always secure good contacts and prolongate the lifetime.

COPYRIGHT: (C)1986,JPO&Japio

JP Schrift prüfen

→ weitere Figuren ?

참고문헌: 150249 (2)

このICパッケージは脚立係によってソケット本体3に固定される。このソケット本体は取付基板に固定されることになる。

第4図に使用のソケットピン4の加工を示す。このピンは使用位置に挿入される基礎部41と、ICパッケージの外周リード2に接続する接触部42と、これらの中間に設けられ多くの半導体の存在部43と、を有する。ICパッケージ1が押入5で固定されると、接触部43が押入5の圧力を受けて変形可能に、これに対する応力によって接触部42が外周リード2に接続することになる。このためピン1には弾力性が必要、導電性すぐれたベリリウム酸化物の材質が用いられ、導電性面に金めっきが施される。

(青 聖 技 術 の 四 段 處)

従来のソケットピン4は、骨幹部43の屈曲部44に実力が集中するため、長期使用していると、屈曲部44の弾力性が弱まり、伸縮部42を外周リード2に磨耗させる力が弱くなってくる。また、第5図に示すようにICパッケージ1を吸

せ、押入板で圧力をかけると、ソケットピン4は円の一部で保つておくように形状変形するため、外周リード2が固い場合に図4が外周リード2の先端からはずれてしまうおそれがある。

このように任意のソケットピンには、接続不良が生ずるおそれがあり、また冷電が強いという欠点があった。

(海 軍 中 國 海)

そこで本発明は特に良好な効果を得るべく、所
定の長手方向に延びるソケットピンを備えるこ
とを目的とする。

(聖明御覽)

本発明の物性は、平環状実用ソケットピンにおいて、与電圧と負抵抗との中間に負抵抗特性を設け、ピンにかかる応力を分散し、常に良好な性能を確保し、寿命を伸ばした点にある。

(幾何の定理例)

以下、本発明を例示する実施例に基づいて説明する。第1図に本発明に係るソケットピンの一実施例の形状を示す。第1図41と第1図42との

中国に投げられた弾性鉛4号は粗造しており、2つの圓錐角4.4と4.4°を有する。底面は一つの圓錐角に反対が鋭中していたのに対し、本資料では底面が2ヶ所に分散し、1つの圓錐角の底面が粗造である。このため圓錐角の弾力性可変が伸び、底面が鋭角が得られることになる。弾力を平均に分散させる意味で、現状弾性鉛4号は、近くに弾道偏角の底面にある2つの円錐角がほぼ等しいのである。本項問題に係るソケットピンのもう1つの特徴は、弾性鉛型とあるが底面ビンの鋭角方向を出しての全全じりう点である。これは2つの圓錐角4.4点よ4.4°が均等に5割ずつ可変性を得るためである。従って第5図に示した従来のソケットピンのように、距離42がそれぞれ2からはずれるようなことはない。

第2図は別な實態例に係るソケットピンの形状を示す図である。本発明に係るソケットピンの材質には鉄系とありベリリウム銅に金めっきしたものを用いることができるが、より圧力伝の小さい

図4に斜線を描いた割合には、図2図3に示すように、両歯の噛み付き4分の1の一部分に切欠部4'を設けるようにするのが好ましい。押えねるの抵抗力を上げて、まず歯面部4が押し込まれる方向へ、やがてこの噛み付き部分によって切欠部4'がはみだれ、図5の44'も押し込まれる方向へ、最終的には歯面部44と44'とに抵抗力を分散させることになる。図1図2に示した両歯側面と同様の作用を生ずることになる。即ち、切欠部4'が斜線の抵抗力を減らす作用をなすことになる。

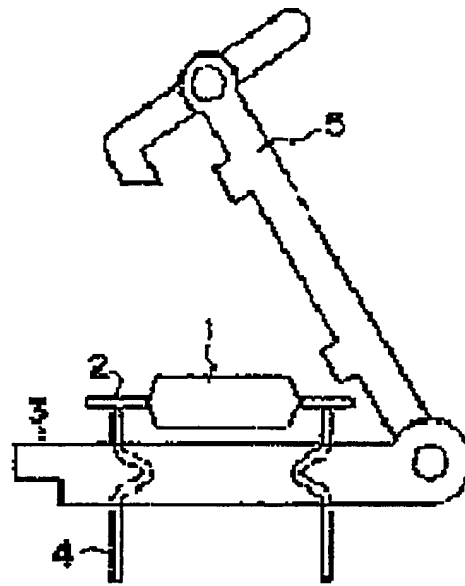
(1) 是國金物業

以上のとおり本月初によれば、平準債権控用ソケットピンにおいて、国鉄御殿田を撤けるようにしたため、日に急好な勢道を示し、かつ好命を伸ばすことが出来る。

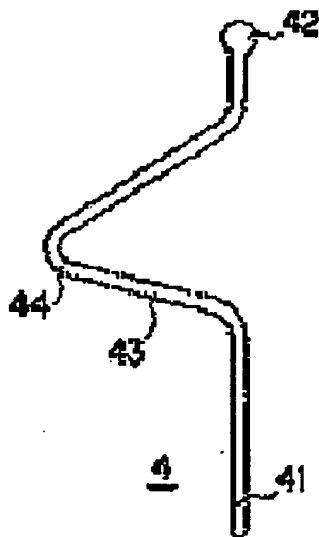
4. 国債の発行と回収

第1図は本発明に係るソケットピンの一実施例の説明図、第2図は本発明に係るソケットピンの別な一実施例の説明図、第3図は従来の構造体

第 3 圖



第 4 圖



第 5 圖

